

カタクリ ユリ科

残雪の残る早春、林にさしこむ光をたくさんあびて花を咲かせます。イチリンソウやアズマイチゲなどと共に「春植物」といわれています。

落葉広葉樹が葉を広げて林の中が暗くなる5月中旬ころには葉を落としてしまいます。

球根にはたくさんデンプンがふくまれ、昔は片栗粉をとる植物として大切にされてきました。



カタクリの特ちょう

葉は茎の下に2個、たまご型か長いだ円形で、黄緑色に暗いむらさき色のもようがあります。

花は6枚のピンク色の花びらをもつ花を茎の上に1個だけ下向きにつけます。

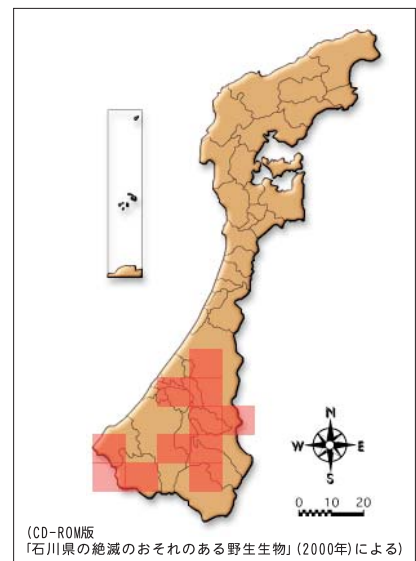
調べやすい時期（花期）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

県内の分布

津幡町「倶利伽羅」から北の能登地方や白山の高山帯には分布していません。

かつてはよく見られる植物でしたが、下刈りなど雑木林の手入れがされなくなったことや工事などによって急速にへってきています。



見つけやすい場所

樹木が密生しないコナラやブナなどの落葉広葉樹林、管理の行きとどいたスギ林や竹林などに生育します。

見分け方のポイント

他に似た種類はないので、見分けやすい植物です。早春の林の中、よく晴れた日に、ピンク色の花をさかせているカタクリをさがしてみましよう。

